

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 受託開始日 2026 年 9 月 18 日（金）ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード (旧項目コード)	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
O1A78 4 (1A78 4)	抗NF155抗体 5G824-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00 (X)	凍結	事前にご確認 ください	1000 ※6	ELISA	2.0未満 (U/mL)	
O1A79 3 (1A79 1)	抗CNTN1抗体 5G825-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00 (X)	凍結	事前にご確認 ください	1000 ※6	ELISA	5.0未満 (U/mL)	

※6：免疫学的検査判断料



● 抗NF155抗体および抗CNTN1抗体
自己免疫性ノドパチーの診断補助に有用です。

自己免疫性ノドパチーは、自己抗体の検索以外に慢性炎症性脱髄性多発神経炎（以下CIDP）との区別が難しい症例があり治療反応性も異なることから、CIDPの類縁疾患として区別されています。その代表的な特異的自己抗体として、神経のランビエ絞輪近くにある傍絞輪部蛋白を標的とした抗neurofascin155（NF155）抗体および抗contactin-1（CNTN1）抗体が知られ、CIDPとみなされている患者のうち4～20%に抗NF155抗体が、1～8%に抗CNTN1抗体が陽性の報告があります。本検査は血清中の抗NF155抗体および抗CNTN1抗体をELISA法により測定する定量検査です。CIDPと異なり、免疫グロブリン療法（IVIg治療）に治療抵抗性を示す症例が多いとされる自己免疫性ノドパチーの診断補助および治療方針決定の一助に有用です。

▼検査要項

検査項目名	抗NF155抗体	抗CNTN1 抗体
項目コード (旧項目コード)	01A78 4 (1A78 4)	01A79 3 (1A79 1)
検体量	血清 0.3 mL	血清 0.3 mL
容 器	S09 → A00 (X) ポリスピッツ	
保 存 方 法	必ず凍結保存してください	
所 要 日 数	事前にご確認ください	
検 査 方 法	ELISA	
基準値 (単位)	2.0未満 (U/mL)	5.0未満 (U/mL)
報告範囲 (単位)	1.0未満、1.0～79.9、80.0以上 (U/mL)	1.0未満、1.0～99.9、100以上 (U/mL)
桁数	有効3桁、整数2桁、小数1桁	有効3桁、整数3桁、小数1桁
検査実施料	① 1000点 (「D014」自己抗体検査「46」)	
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)	
備 考		

① 「抗NF155抗体」及び「抗CNTN1抗体」は、慢性炎症性脱髄性多発神経炎又は自己免疫性ノドパチーの診断の補助（治療効果判定を除く。）を目的として、ELISA法により測定した場合に、患者1人につきそれぞれ1回ずつ算定できる。ただし、自己免疫性ノドパチーの再発が疑われる場合は、初回の検査で陽性であったいずれかの項目に限り、再度算定できる。なお、2回以上算定する場合においては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

●参考文献
緒方 英紀：神経治療学 40（4）：479～483, 2023.（検査方法参考文献）
日本神経学会：慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー，多巣性運動ニューロパチー診療ガイドライン 2024：118～119, 2024.（臨床的意義参考文献）